



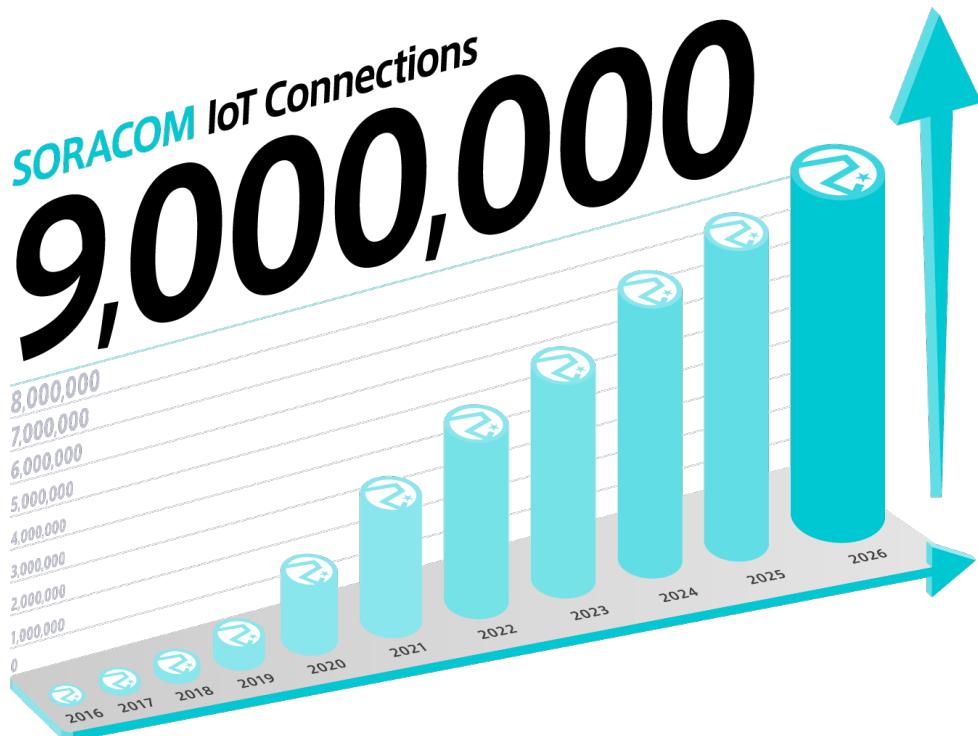
2026年1月6日
株式会社ソラコム

ソラコム、契約回線数が900万を突破

AI/IoTプラットフォーム「SORACOM」を中心に、
AI時代のIoT基盤として進化を加速

株式会社ソラコム(本社:東京都港区、代表取締役社長 CEO 玉川憲)は、グループ全体の契約回線数(*1)が、900万を突破したことをお知らせします。本契約回線数は、ソラコムが提供するAI/IoTプラットフォーム「SORACOM」の回線に加え、グループ会社である株式会社ミソラコネクトが提供する通信サービスの回線を合算したものです。

IoTは、製造、エネルギー、インフラ、物流、小売など、幅広い分野で社会や事業を支える基盤へと進化し、AIの活用により、デジタル技術はフィジタルな世界との融合が始まっています。今回、900万回線を突破した主な要因は、この新たなIoT需要の高まりに加え、モバイルワーカーや大容量データ通信に強みを持つ株式会社ミソラコネクトを連結子会社化したことや、好調なアメリカ事業の成果などがあげられます。



世界中のモノをつなぐIoTプラットフォーム「SORACOM」の進化

AI/IoTプラットフォームSORACOMは、グローバルに利用できる通信プラットフォームです。「SORACOM Air for セルラー」は、213の国と地域、509キャリアに対応し、SORACOMのグローバル売上比率は4割を超えています。一つの国で複数の通信キャリアネットワークが利用できるマルチキャリア対応、遠隔から用途や利用エリアにあわせて通信プロファイルを書き換える「サブスクリプションコンテナ」機能、カード型、組み込みチップ型(eSIM)、モジュール一体型(iSIM)が選べるSIMの形状などの特徴により、高い通信の信頼性と柔軟性が評価されています。



IoT を製品へ “組み込む” 3種類のSORACOM IoT SIM

SORACOMは、フィジカルとデジタルをつなぐAI/IoTプラットフォームへ

ソラコムは昨年、現実世界のデータをAIによって価値へと変換する戦略として「リアルワールドAIプラットフォーム」を発表しました。この戦略のもと、IoT通信を軸にしながら、フィジカルとデジタルをつなぐAI時代のIoT基盤として、サービスの進化を続けています。

IoTデバイスから得られるデータは、AIによる分析や判断と組み合わさることで、単なる可視化を超え、業務の最適化や自動化へと活用領域が広がっています。データ分析基盤「SORACOM Query」は、AIを統合することで、SORACOMの回線管理データやIoTデータを柔軟に活用できる環境を提供し、現場でのデータ活用を支えています。

また、AI活用の裾野を広げる「AI/IoTの民主化」という観点では、IoTシステムの自動化を実現する「SORACOM Flux」や、ソラカメの映像に直接生成AIによる分析をおこなうことができる「ソラカメAI」にAIを統合し、製造業、小売業、物流業など、さまざまな業界の現場主導のAI活用を支援しています。すでに、大塚倉庫株式会社では、[カメラと生成AIを活用した倉庫の侵入検知システム](#)が稼働しており、生活協同組合コープさっぽろでは、売場の惣菜の在庫状況を、カメラと生成AIで自動測定し通知する仕組みとして活用が始まっています。


小売・店舗


SORACOM

ソラカメ導入事例
生活協同組合コープさっぽろ

売場の在庫状況を、生成AIで自動測定し通知する仕組みを構築。
人による映像確認・分析の手間を削減し、在庫の時系列推移も数値化



※実証実験

事例から見る「あらゆるモノがつながる」IoTの広がり

近年の導入事例からは、IoTが単独のシステムではなく、事業やサービスを横断的につなぐ基盤として活用されている様子がうかがえます。

大崎電気工業株式会社では、[社会インフラを支える電気計測器の高度化にIoTが活用](#)されています。日本ゼオン株式会社では、[スマート工場化](#)により、製造現場におけるデータ活用が進んでいます。また、本田技研工業株式会社が開発した[モビリティロボット「UNI-ONE」](#)においても、[SORACOMの通信が採用](#)され、人とモビリティ、サービスをつなぐ役割を担っています。アメリカでは、Riddell のアメリカンフットボールのヘルメットのセンシングを支援しています。



大崎電気工業株式会社
遠隔検針サービス
「らくらく検針®」



日本ゼオン株式会社
スマート工場化を加速する
セキュアなIoT共通基盤



本田技研工業株式会社
モビリティロボット
「UNI-ONE」



Riddell
アメフトヘルメットの
スマートセンサー

これらの事例は、IoTが個別の用途にとどまらず、製品、サービス、利用者、そしてデータを横断的につなぐ存在へと進化していることを示しています。

フィジカルAI時代を支える大容量データ通信への対応

AI時代のIoTでは、小容量のセンサーデータに加え、モビリティやロボットなど、映像や大量の時系列データ、点群データなどの大容量データを扱うユースケースも見えてきています。こうしたニーズに応えるため、SORACOMでは、1TB超えのデータも扱える大容量通信プランの提供も開始しました。グループ会社の株式会社キャリオットでは、総務部門の車両管理・安全運転

管理業務を変革するため、AIドライブレコーダーを提供するStreamax社と協業し、普及を推進しています。

また、2025年8月1日にグループ会社の株式会社ミソラコネクトの事業を開始しました。ミソラコネクトは、モバイルワーカー向けや、大容量データ通信に強みを持つNTTドコモのフルMVNOとして、SORACOMが培ってきた技術力を活かしながらサービスを展開しています。ミソラコネクトの事例として、アスコン沖縄株式会社では、デジタルサイネージ用途での通信に採用されています。日本連合警備株式会社では、警備通信や防犯カメラ用途として活用されています。

ソラコムは、引き続き「誰もがテクノロジーを使えるようにする」というミッションのもと、AIとIoTの融合をさらに加速させ、フィジカルな世界の変革と、よりよい社会の実現を支援してまいります。IoTを軸に最新技術をより使いやすく提供することで、多くの活用事例とイノベーションの創出を目指します。

(*1) AI/IoTプラットフォームSORACOMにおける、海外法人からの提供を含む SORACOM Air の総回線数(SORACOM Air for セルラー、Sigfox、LoRaWANを含む)と、株式会社ミソラコネクトの回線数を合算。

ソラコムについて

AI/IoTプラットフォームSORACOMは、世界213の国と地域でつながるIoT通信を軸に、IoTを活用するために必要となるアプリケーションやデバイスなどをワンストップで提供しています。製造、エネルギー、決済などの産業DXから、イノベーティブなスタートアップ、農業や防災など持続可能な地域社会を支える取り組みに至るまで、さまざまな業界・規模のお客様にご活用いただいているいます。

ソラコムコーポレートサイト <https://soracom.com>

＜本ニュースに関するお問い合わせ＞

株式会社ソラコム 広報 田渕

pr@soracom.jp